

東成区社協創立60周年記念号

あらたな10年に向けて

大阪市東成区
社会福祉協議会 会長
清水 弘

東成区社会福祉協議会は、今年創立60周年を迎えました。戦後の混乱が続く昭和26年に産声をあげて以来のこの60年は、まさしく激動の時代であり、この間の実に多くの先達、関係者、地域の皆さん方のご苦勞、ご尽力を考えますと、改めて身の引き締まる思いであります。

60年は人間では還暦、人としては完成に近づくと言われるますが、これからの本格的な超高齢社会の到来と、一方での我が国の財政危機などを考えますと、完成ではなく、さらなる変革に向けたチャレンジの時代であろうと感じております。

これまでの地域福祉活動の実績をもとに、人情あふれる東成ならではの人のつながりを大切に、住民、地域諸団体、区役所との一層の連携により、新時代の要求に応えられる区社協活動を創造してまいりたいと思います。皆様方の一層のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

大阪市東成区長
清野 善剛

東成区社会福祉協議会が創立60周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

貴協議会は昭和26年に創立され区内11校下社会福祉協議会の活動を支えてこられました。「高齢者食事サービス」を東中本校下が昭和55年という市内でも早い時期に取り組みされた事業の支援など、小学校下単位の自主的な地域福祉活動を大切に推進されてきました。また、平成18年には、区民の多くの方々との協働により「東成区地域福祉アクションプラン」を策定されました。その積み重ねの上に、この4年間には「おまもりネット」「地域ケアネットワーク連絡会」など、アクションプランの具体活動に取り組みされていることに深く感謝と敬意を表するしだいです。

今後とも「住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくり」を合言葉に、区行政の重要なパートナーとして、お力添えいただきますようお願い申し上げます。

大阪市長
平松 邦夫

東成区社会福祉協議会が創立60周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。貴協議会は、昭和26年の設立以来、地域の方が安心して暮らせるような様々な活動を展開され、地域福祉の向上に大きく貢献してこられました。清水会長をはじめ、歴代役員、会員の皆様方のご熱意とご尽力に、改めて深く敬意を表し、感謝申し上げます。

大阪市では、地域に暮らす人々がみんなで支え合う新しい形の地域社会を築くことで、誰もが安心して子どもを育て、心豊かに年齢を重ねていける「元気な大阪」をつくっていきたくと考えております。そのためには、地域福祉の推進役として豊かな経験をお持ちの皆様方のお力が不可欠であり、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

東成区社会福祉協議会のますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

創立60周年記念社会福祉講演会

3月12日(土)

時間 午後2時～3時40分
(1時30分開場)会場 東成区民センター
入場無料

定員 600名(当日先着順)

手話通訳があります

夜回り先生から 今
君たちへ伝えるメッセージ

～地域に住む仲間として、子どもたちの心に寄り添えるか～

「夜回り先生」水谷 修 講演会

世の中の動き

社会福祉と東成区社協の動き

2001年
平成13年

- ★ 21世紀が始まる
- 「聖域なき改革」「抵抗勢力」「D・V(ドメスティックバイオレンス)」「ショー・ザ・フラッグ」「塩じい」
- 小泉内閣発足
- 大阪教育大付属小での児童殺傷事件
- アメリカで9.11同時多発テロ

- 2001国際ボランティア年
- ☆ 東成区社会福祉協議会 50周年記念大会
- 在宅支援員(ケアマネ)を配置
- 開館時間の延長-夜間相談開始
- 東小橋、東中本、中道3校下で小地域ネットワーク活動開始

2002年
平成14年

- 「タマちゃん」「貸しはがし」「声に出して読みたい日本語」
- アジア初、FIFAワールドカップ、日本と韓国で共同開催
- 初の日朝首脳会談、10月に北朝鮮より拉致被害者5名が日本に帰国
- 公立学校完全週5日制、「ゆとり教育」がスタート

- 東成区社会福祉施設連絡会発足(区内25ヶ所の施設が参加)
- 地域生活支援事業、あんしんサポート事業を区社協で開始(地域支援員、在宅相談員、電話相談員が配置される)
- この年度より区内全ての校下で小地域ネットワーク活動がスタート

2003年
平成15年

- 「なんでだろ～」「マニフェスト」「勝ちたいんや」「年取300万」
- イラク戦争始まる
- 阪神タイガース 18年ぶりのセ・リーグ優勝
- 日経平均株価がバブル崩壊後の最安値を記録
- SARSがアジアを中心に世界的に流行

- 社会福祉法施行、市町村が「地域福祉計画」を策定することが規定される
- 厚生省が「介護保険制度改革の全体像」を公表
- 日本・フィリピン経済連携協定でフィリピン人介護士の受け入れ決定
- 大阪市「高齢者保健福祉計画・介護事業計画」策定

2004年
平成16年

- 「チョー気持ちいい」「サプライズ」「負け犬」「冬ソナ」
- 参議院選挙で、民主党が自民党を上回る
- 新潟中越地震
- スマトラ島沖で巨大地震、インド洋周辺で津波の大被害、死者、行方不明者約30万人

- 大阪市の「大阪市地域福祉計画」大阪府社会福祉協議会が「大阪府地域福祉活動計画」を策定
- 広報「ひがしなり」でご近所の方へ「ありがとう」のメッセージを募集。
- 東成区地域福祉アクションプラン策定委員会が発足
- 厚労省が「痴呆」の呼称を「認知症」とすることが最適であるとの報告書

2005年
平成17年

- 「小泉劇場」「想定外(内)」「萌え～」「クールビズ」
- JR福知山線脱線事故、死者107名負傷者555名
- 衆議院総選挙、郵政民営化をめくり、自民党が圧勝
- マンションなどの耐震偽装発覚
- 介護保険法の改正により予防介護の導入、地域包括支援センターの設置が定められる
- この年日本の人口が戦後初めて減少。出生率が1.26と過去最低を記録

- 市社協が実施していた「安心さぼーと」事業を区社協が受託
- 区社協事務局体制の強化と新規事業実施のため、①管理運営部門 ②地域福祉推進部門 ③在宅サービス部門の3部門に再編強化
- 市の地域ネットワーク委員会の事務局機能が区から区社協へ移管される
- アクションプラン策定に向け、小委員会、ワーキンググループ、子育て支援活動者座談会などを順次実施
- 社会福祉関連施設調査を実施

2006年
平成18年

- 「イナバウアー」「品格」「格差社会」「ミクシー」
- ライブドア社長堀江貴文被告逮捕
- 改正介護保険法施行、介護予防サービススタート
- 高齢者虐待防止法施行・障害者自立支援法施行
- 7月北朝鮮がテポドン発射、10月には地下核実験を実施
- 小泉総理退任、安部政権誕生

- 3月東成区地域福祉アクションプラン策定
- 4月地域包括支援センター開設、介護予防事業を開始
- 訪問調査員、市社協配置となる
- 4月区老人福祉センターを指定管理者制度により受託
- 大阪市、市立勤労青少年ホーム条例(トモノス)を廃止、7月より子ども子育てプラザ事業を区社協が受託

2007年
平成19年

- 「どげんかせんといかん」「く消えた」年金」「そんなの関係ねえ」「食品偽装」
- 参議院選挙で、民主党が参議院で第1党となり与野党逆転による「ねじれ国会」
- 米国サブプライムローン問題により、世界同時株安
- 安部首相突然の辞任、福田首相誕生
- 大阪市長選にて、平松邦夫氏が当選

- 市社協が大阪市より「大阪市成年後見支援センター」の運営を受託
- 中本、東中本校下で「おまもりネット事業」をモデル事業として実施
- 大阪市高齢者実態調査を実施(08年3月に報告書を発表)

2008年
平成20年

- 「アラフォー」「く～!」「名ばかり管理職」「埋蔵金」「後期高齢者」
- 大阪府知事選で橋下徹氏が当選
- 北京オリンピック
- ミリマンブラザーズの破綻をきっかけに金融危機が拡大(リーマンショック)
- 米初のアフリカ系大統領にバラク・オバマ氏が当選

- 国庫補助のモデル事業「地域福祉活性化事業」として東成区を含む9区が指定される
- 中道、今里、片江、宝栄校下で「おまもりネット事業」開始
- 第1回東成区通所サービス事業者連絡会(区内のデイサービス、デイケアの事業者が集まる)
- 「障がいのある方たちの社会資源マップ」完成
- ふりーすべーすSUNと子ども子育てプラザ利用者の交流会(障がい者と小学生との交流)

2009年
平成21年

- 「政権交代」「事業仕分け」「派遣切り」「草食男子」「脱官僚」
- メキシコからはじまった「新型インフルエンザ」が大流行
- 歌手マイケルジャクソンさん死亡
- 衆議院総選挙で民主党が第1党となり、鳩山政権が誕生
- 平成22年度予算編成に関わる第1次事業仕分け

- 市社協が第2期大阪市地域福祉活動計画、大阪府が大阪市地域福祉計画(21～23年度版)を策定
- 区社協ホームページを開設
- 地域包括支援センターの複数化、他法人の参入が一部の区で始まる
- 地域生活支援事業の機能強化にともなう区社協事務局組織の再編
- 地区ネットワーク委員会と地域包括支援センターとの連携による地域ケアネットワーク連絡会がはじまる
- 全国社会福祉大会で片江校下社会福祉協議会が優良活動表彰を受ける
- 大成、北中道校下で「おまもりネット事業」開始

2010年
平成22年

- 上海万博
- 鳩山首相辞任、菅首相誕生
- 参議院選挙で、民主党が大幅減、与野党逆転による「ねじれ国会」が再び出現
- 尖閣諸島沖で中国船が海上保安庁の巡視船に衝突
- 北朝鮮、韓国の延坪島に砲撃、民間人にも死者

- 区と災害ボランティアセンターに関する協定書を締結し、区の開設訓練に参加
- 第2期の指定管理者選定により、22年からの4年間、区老人福祉センターの管理運営を受託
- 厚生労働省が「後期高齢者医療制度」の中間見直し案を発表
- 東小橋校下で「おまもりネット事業」開始

2001年から2010年の10年のあゆみ

各校下 社協活動 紹介

『地域福祉推進の中核を担う 校下社会福祉活動のこれから』

東成区内の各校下社会福祉協議会（以下、校下社協）は、東成区社協の設立に併せて昭和26年に設立されました。設立当初は戦後の混乱期における助け合い、青少年の健全育成等の活動に取り組みました。昭和20年代には「青少年生活実態調査」を実施し、「児童遊園の設置運動」、「校庭開放運動」を推進しました。昭和30年代には校下老人クラブと連携して行事の開催、「悪書をなくす運動」を推進し青少年の非行防止に努めました。昭和40年代には「地区組織活動推進地区」、「地域福祉センター活動モデル地区」、「老人福祉対策連絡会議指定地区」に取り組みました。昭和40～50年代には福祉の町づくりを進めるため「地域福祉活動モデル地区」を展開し「老人食事サービス」を推進しました。

このように各時代の要請に応えながら、住民同士のつながりをつくるための数々の事業に自発的に取り組み、今日の少子高齢化の進展を背景にした地域福祉課題の解決に続く活動を積み重ねて参りました。このような活動を通じて高められた「住民主体」の考え方は、次世代へ伝えていく大切な活動ポリシーです。

これまでの経済活動重視の社会のあり方、核家族化等の要因により地域での人と人とのつながりが希薄になってきています。そうしたなかで福祉課題を持つ住民の孤立、認知症高齢者、高齢者・児童の虐待、昨今の経済情勢の悪化を背景にした若年層の雇用問題等をはじめ、いくつかの福祉課題が複合、高度化する問題が顕在化してきています。今や地域生活上の福祉課題は世界情勢とも関連を持つ状況にあると言えます。こうしたなかで、福祉課題の発生を予防、未然に防ぐ早期発見、早期対応ができるような「つながりの再構築」が求められています。このような現状を踏まえ、社協設立60周年を迎えるにあたり、これからの校下社協活動の展望をご紹介します。

1 東小橋 校下社会福祉協議会

育ち 巣立ち ここに集う みんなのふるさと 東小橋

出 会 い と つ な が り を 大 切 に

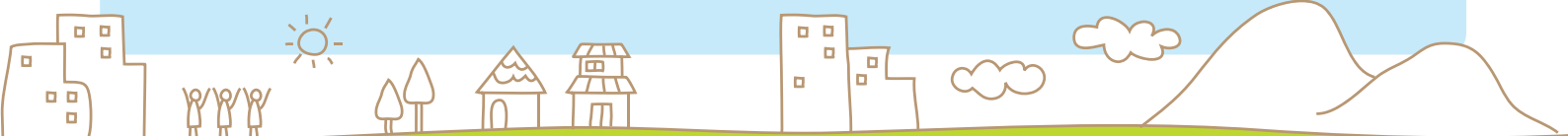
東小橋校下においては、他地区から転入される世帯が増加してきており、新しい方々との交流を深めていくのは大きなテーマと考えています。以前から子どもを中心にした連帯感がある地域で、たとえば「桜花祭」・「地域運動会」などは他都市に移った方も参加するなど良いつながりが続いています。「校下社協広報紙」は30年の発行実績があり地域で人と人をつなぐ役割を果たしてきました。今後の地域福祉活動は、若い世代の活動者の参加を得て①子どもの育ち、②高齢者の健康増進を図るため「ふれあい喫茶」、「いきいき教室」の活性化、③「おももりネット事業」を通じ高齢者の孤立を防ぐこと、④「認知症」を正しく知ることをキーワードに取り組んでまいります。



◀連帯感が「地域運動会」を盛り上げる



▲住民のつながりを促進する「東小橋だより」



2 大成

校下社会福祉協議会

ふれあいと めくもりのある 町づくり

みんなの幸せの実現をめざして

JR環状線の外側に面し、平野川が流れる多文化共生の町として栄えた文化の息吹を感じるわが地域には、松下幸之助氏や小説「血と骨」の作者である梁石日（ヤンソギル）氏が住んでいたことでも知られています。地域内には東成区役所、障害者施設など社会資源も豊富で、大成地域福祉連絡協議会として地域が一丸となって町づくりをしています。各町会のつながりも強く、皆が仲良く活動しており、盆踊りには他地域からも多くの方が来られます。特に子ども達の参加が多く、さまざまな地域団体や社会福祉施設が夜店を出し、地域をあげて取り組んでいます。今回、新しく区民ホールができたこともあり、地域住民全体で更なる地域活動の充実を図り、連帯感を高め人間性豊かで潤いのある町づくりをめざします。



◀高齢者食事サービスは情報を伝える場でもある



はぐくみの場面▶



子育てサロン

3 今里

校下社会福祉協議会

安心 安全 みんなで つなごう ゆたかな心

日常活動は災害時助け合い活動の底力

今里校下では防災を重点テーマとして取り組んでいます。平成22年度は中学生以上の住民が参加する「泊まりがけの避難所開設訓練」を実施しました。また身体の不自由な人を2階から助け出す訓練を、自作のイス式担架を用いて実施するなど防災意識の向上を図っています。日常的には、「みんなが集まる今里校下の良い気風」を大切に、子どもの育ちを支え、ふれあい型食事サービスも身体の不自由な高齢者が一人でも多く参加できるように取り組みたいと考えています。日常活動と非日常活動（災害時）の連続性に焦点をあてて、校下社協会議では多様な関係者が一堂に会し「高齢者、障害者が安心して暮らせる町づくり」、「元気で賑わいのある町づくり」を推進していきます。



▲夜間における避難所開設訓練



普段のつながりは食事サービスから

<http://www2.ocn.ne.jp/~imazato/>



4

中道

校下社会福祉協議会

安心と 喜びあふれる 町づくり

「子どもはぐくみ」をテーマに、 つながりを深める

少子高齢化や核家族化、ライフスタイルの変化により、地域での人と人とのつながりが希薄になっています。そうしたなか、中道校下では、「餅つき大会」「ふれあい陶芸」のような、小学校やPTAと協力した取り組みで、世代を超えたつながりを深めています。広報誌を「はぐくみネット」と一緒に作成していることも特徴です。また、最近では、「ちびちゃんサークル」の参加者が増えており、子育て世代の親が地域とつながりを持つきっかけになっています。こうした活動を支えているのは、今のところ地域組織の関係者やボランティアが中心となっていますが、新しく中道校下を故郷とされる方々とも活動を通してさらにつながりを深め、次世代の担い手の育成を図りたいと思っています。



▲「ちびちゃんサークル」が地域デビューのきっかけに



▲子どもたちに人気のある「餅つき大会」

5

北中道

校下社会福祉協議会

地域ぐるみで 子どもたちと共に あいさつ運動の充実

世代間交流で「楽しく住みよいまちづくり」

「ふれあい型食事サービス」は20年の歴史があります。配食は当初から和やかな雰囲気があり、安否確認の役割も担っています。また「ふれあい喫茶ひまわり」は地域のふれあいの場として機能しています。高齢化が進むなかで、特に力を入れているテーマは「世代間交流」を通じた福祉のまちづくりです。「敬老のつどい」、「もちつき大会」などは高齢者と子どもたちの交流があります。「北中道わがまち文化祭」は校下内の団体、福祉施設が参画し、さまざまな世代が参加する一大行事です。通学時の「見守り隊」はPTA、町会のボランティア、学校が連携して実施し、ボランティアと子どもたちの交流も盛んです。「子育てサロン」と同様に地域で子どもたちを育てることにつながっています。

<http://blog.canpan.info/kitanakamiti/>



▶地域の連携が子どもたちの安全を守る



▲「北中道わがまち文化祭」は参画と参加の舞台

6
中本
校下社会福祉協議会

声かけあいつながり 支え合う 地域の和

安心・安全 なまちづくりをテーマに

私たちの地域は、一部戦火の影響を受けたところもありますが、早くから復興を果たし大阪市街地から近く便利な位置にあります。静かな佇まいと古くからの住宅も多く、地元の方もたくさんお住まいで、住民同士のつながりも強く、仲良く地域活動を展開しています。高齢者食事サービスでは、中本小学校6年生が自宅へお弁当をお届けする活動が長く続いており、平松市長が見学に来られ交流がありました。地域内には福祉施設も多く所在し、少子高齢化が進むなか、子ども会や青少年指導員も熱心な活動をしています。今後の大きな取り組みは地域全体の高齢者に友愛訪問を継続しておこなうことと、大阪市第1号の防災コミュニティ道路として認定を受けた取り組みを次世代へ引き継ぎ、安心・安全な町づくりをめざします。

<http://nakamotosyafuku.web.fc2.com/index.html>



▲みんなで配食へ出発



▶「元気」でつながる地域の和、「おっとり体操」

7
東中本
校下社会福祉協議会

「大切な人だから」助け合い みんな楽しく 町づくり

認め合い、気づき、助け合う心で、地域が結束

東中本校下では、「みんなで楽しく」を基本に、「観桜会」のような、地域の障害者、子どもたち、子育て中のお母さんなどさまざまな人が仲よく交流できる行事をおこなっています。皆が同じ地域住民として認め合い、気づき、助け合おうという意識を持ち、すぐに協力者が集まる体制で他の活動にも取り組んでおります。また、楽しく活動している様子が口コミで広まり、新しい担い手が徐々に増えつつあるのも嬉しいことです。今年は、十数年ぶりに「東中本フェスティバル」を復活させ、これからも皆が楽しめる行事を増やしていく予定です。そうした活動を通じて培った地域の結束力を活かして、今後は災害時の助け合いなど、防災に関しても取り組んでいきたいと考えています。



◀10年ぶりに復活した「東中本フェスティバル」



▶さまざまな住民が集う「観桜会」



8

神路

校下社会福祉協議会

はぐくみの心で築く 神路の輪

商店街や川のある町、支えあう町、 伝統のある町・神路

私たちの町、神路は川を挟んで西側は昔からの住宅が多く東側は商工関係やマンションも多く建っており人口密度の高い地域です。昔から住んでいる人も多く、防災などいざと言うときは素早い行動で協力し合えることが自慢です。また学校の登下校の見守り隊をPTAと協力して何年も続けています。

ふれあい会館を中心に食事サービスを行い参加される多くの人達の栄養面や食材の工夫をこらした食事を提供できるようにボランティアの人達が頑張ってくれています。また、高齢者の多い町ですが子育てサロンにも沢山の親子が参加しボランティアの人達とも楽しく交流をしています。これからは多くの世代の人に「自分の町」への思いを共有できる町づくりを進めていくことが課題です。



▲地域ボランティアが活躍「高齢者食事サービス」



▼「子育てサロン」は地域のゆりかご

9

深江

校下社会福祉協議会

つながりの輪を広げよう

歴史と文化を継承し伝統を次世代へつなぐ深江

http://www.geocities.jp/fukae_csw/

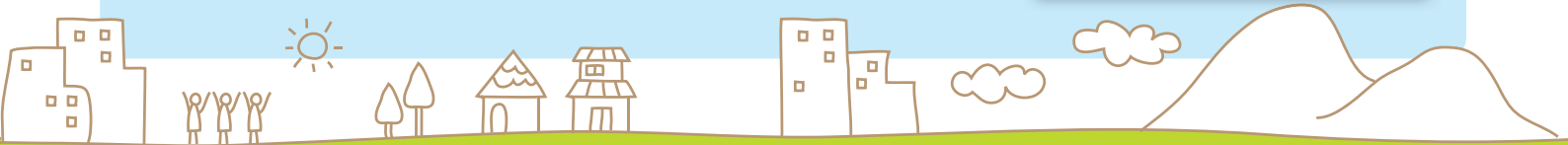
私たちの町は、以前より住民同士のつながりが深い地域で積極的にボランティアに参加しようという思いがあります。例えば、深江の菅田の復活と菅細工・茶釜の「郷土資料館」も地域のボランティアにより運営されています。また、街道フォーラムでは、「まちの賑わい」をテーマに235名のボランティアが参加され、高齢者や子ども達をはじめ多様な世代の参加で世代間交流を図ることができました。また、一方では一人暮らしや高齢者が増えるなか友愛訪問を充実し更に楽しい町づくりへ向け環境・衛生にもより一層の連携をもち安心・安全の町を目指して地域住民みんなで取り組んでいきたいと考えています。昨年、私たちの地域を知ってもらおうとホームページを立ち上げました。よろしければ一度ご覧下さい。



▲ホームページで校下社協活動を発信



▶多様な世代が集う「街道フォーラム」



10 片江

校下社会福祉協議会

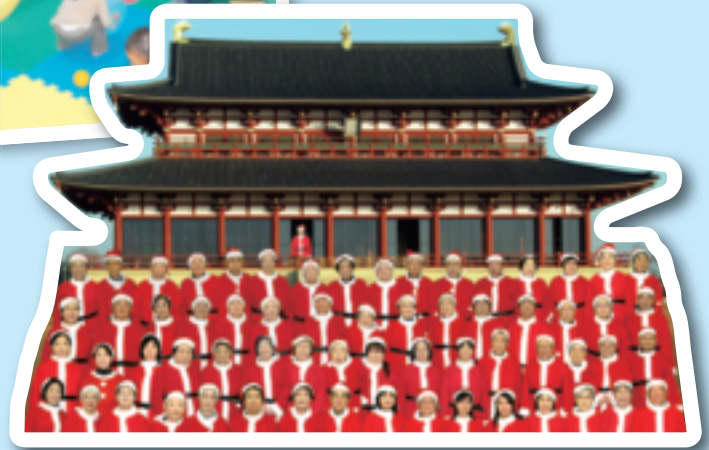
支え合う 交流と 情報の まちづくり

「おまもりネット」の活用で、地域で高齢者を支える体制を

これまで、住民同士の交流を深めるために、盆踊りや体育祭といった盛大な地域行事、親と子のつどい（子育てサークル）などをおこなってきました。近年は、一人暮らしの高齢者の増加に伴い、住民同士のつながり、支え合いの強化を図るため、隣近所の日頃の声かけや見守りによる安否確認の活動を活発におこなっています。一方では、介護サービスの利用により、地域とのつながりが希薄になったという声も聞かれます。片江校下では、昨年より「おまもりネット事業」の取り組みを開始しました。現在、多くの高齢者が登録しています。今後はこの事業を、高齢者と地域との関係づくりに役立て、地域で高齢者を支える体制づくりができればと考えています。



◀小さな出会いから
交流の深まりへ「親と子のつどい」



▲参加者、ボランティアが一堂に会した食事サービス「クリスマスの集い」 撮影清水正和

11 宝栄

校下社会福祉協議会

明るく 楽しく 元気な町 宝栄

「宝栄わがまち学校」は未来への宝石箱

この10年で宝栄校下の様子も随分と変化してきました。店舗の減少や住民の流動など地域住民のつながりが希薄になり、家族のつながりも弱くなってきているのではと考えています。町会活動における次世代の担い手の育成も大きな課題です。宝栄校下全体が元気になるために、町会単位のつながりづくりと学校を舞台にした住民同士のつながりづくりに力を入れ、子どもたちの未来に大きな希望を託しています。特に「宝栄わがまち学校」は担い手世代の多様性が特徴です。年長者が若手をバックアップする体制で取り組み、人材育成を図っています。子どもから高齢者まで幅広い参加を得て宝栄校下の現在そして未来へつながる宝石箱の役割を果たしていきます。

音楽は
世代を越えて



▲グランドゴルフで世代間交流



平成
13年～

新たに始まった 地域 福祉活動

みんなの力で地域福祉の推進を

東成区の地域福祉の充実に向け、様々な住民主体による地域福祉活動が始まりました。これらの活動のキーワードは、地域福祉の実現に向けた「参画と協働」です。これまで出会うことがなかった人同士が活動をおとして出会い、一緒に活動をするのがなかった施設や団体が協働し、新たな活動が生まれてきています。

新たな活動のいくつかをご紹介します。

高齢者支援おまもりネット事業



この事業は、地域福祉活動に参加している高齢者が、介護保険サービスを利用した際、その利用日が地域福祉活動実施日と重ならないよう調整し、地域とのつながりが継続していくことを目的に地区ネットワーク委員会が「おまもりネット手帳」「おまもりネットカード」を発行しています。

現在、東小橋・大成・今里・中道・北中道・中本・東中本・片江・宝栄の地区ネットワーク委員会が、地域包括支援センター、地域在宅サービスステーションと連携し実施しています。

障がい者施設と食育関連団体との 料理教室



この料理教室は、区内にある障害者施設ふりーすペース SUN を利用している障がい者を対象に、東成区食生活改善推進員協議会の皆さんが講師となり実施されています。

この料理教室を通して、これまでふれあうことが少なかった人同士が出会い、互いに学びあう場になっています。この出会いがきっかけとなり、普段からのつながりになり、まちで出会ったときも互いにあいさつをしあうような関係づくりにつながっています。

おもちゃ図書館どんぐり・コリアン子育てサークル「トリの森」

♥おもちゃ図書館どんぐりは、障害のある子どもたちにも、おもちゃの素晴らしさと遊びの楽しさを知ってもらいたいという願いから始まった活動です。



♥コリアン子育てサークルトリの森は、在日コリアンにゆかりのある親子が参加し、子どもたちが共に遊び、お母さんたちが互いに支え合う活動です。



地域ケアネットワーク連絡会

この連絡会は、住民相互の支え合い、つながりづくりを目的に活動している地区ネットワーク委員会と、高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センター、地域在宅サービスステーションにより取り組まれている連絡会です。

地域集会所や老人憩の家などで2～3ヶ月に1回定期的に開催され、福祉のまちづくりを目標に、個別援助課題の解決に向けた話し合いや地域福祉活動の充実に向けた検討や学習会等が行われています。



区社協の 取り組み を紹介します。

地域福祉活動の推進

東成区の福祉課題の解決に向け、ネットワークづくりや、サービスの開発と実施、地域福祉活動の支援などを行います。

- ふれあい広場
- 社会福祉講演会
- 地域ケアネットワーク連絡会
- 福祉教育の推進
- 子育て活動の支援
- ふとん丸洗い・乾燥サービス事業
- 高齢者福祉月間各種敬老事業
- 広報紙の発行
- 車椅子短期貸し出し事業
- 区内の地域福祉活動団体への助成
- 会員の募集
- 福祉募金の実施

校下社会福祉協議会への支援

小学校区を単位とした11の校下社会福祉協議会では地域の特性を活かした様々な活動が展開されています。区社協は、こうした活動の充実に向けた支援や補助金の交付を行っています。

校下社会福祉協議会の主な活動

- 地区ネットワーク活動
- ふれあい型高齢者食事サービス活動
- 見守り・声かけ訪問活動
- ふれあい喫茶活動
- 子育て支援活動
- 世代間交流活動
- 敬老会の実施
- おまもりネット事業など



賛助会員
募集

「あなたとつくる福祉のまち」

東成区社協の財源は、公費補助金、共同募金配分金、会費収入などです。中でも、賛助会員の皆様からの会費収入は、安定した自主財源として、活動の展開に欠かせないものです。東成区社協の活動の趣旨にご賛同いただき、賛助会員として活動を支援して下さる方を募集しています。多くの皆様のご入会をお願いいたします。

個人会員	1口	1000円
団体会員	1口	5000円
法人会員	1口	5000円

いずれも年額、口数に制限はございません。

善意銀行

東成区社協では、広く区民の皆様から善意によるご寄付をお受けし、地域福祉の向上のために有効に活用することを目的として、善意銀行を開設しています。

こんな方からの
ご寄付を
いただいています。

- ◆ 地域福祉向上のための金品の寄付
- ◆ 社会貢献活動に取り組む企業・労働組合
- ◆ 会社やお店などの商品を役立てたい
- ◆ 募金活動やチャリティー、バザーなどの収益金の有効活用
- ◆ 冠婚葬祭のお祝いや香典に対するお返しの一部の寄贈

善意銀行への寄付は、税制上の寄付金控除の対象となります。

～みとめあい ささえ つなごう ころろのわ～

東成区社会福祉協議会の歩んだ60年。様々な事業に取り組み、地域福祉の推進に携わってきました。制度改革や社会の変化によって社協の取り組みもずいぶんと変化をしていますが、これからは「こうなったらいい福祉のまち東成」をめざして、区民の皆様と共に考え、協働によるさまざまな取り組みを行っていきます。

区社協の組織について

社会福祉協議会は地域住民や福祉・保健・医療の関係者などにより構成されており、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現をめざす社会福祉法に規定された民間団体です。

ボランティアビューローの運営

ボランティア活動を身近に感じ、気軽に相談していただくために、活動に関する情報収集と発信・提供を行うボランティア活動の拠点です。また、住みよい地域づくりの一環として福祉教育を位置づけるなど、児童・生徒・学生そしてシニア層等にも積極的にボランティア活動への参加支援を行い、ボランティアの育成や啓発に取り組んでいます。



困ったときは、
区社協にご相談ください。

たとえば、「地域内の施設や他の専門機関と連携したいが、橋渡しをしてもらえないかしら?」「ボランティアスクールを開きたいが、内容や講師はどうしたらいいかしら?」というときは、区社協に相談を!区社協は、地域福祉を推進する団体で、住民主体による地域福祉活動を積極的に応援しています。活動する中で困ったときや、情報がほしいときなど、一度相談してみてください。制度やサービスに関する情報提供、他の地域の活動の様子、活動のポイントや進め方など様々なサポートをさせていただきます。

1 地域包括支援センター

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活ができるように支援します。

- 1 高齢者の福祉・介護などの総合相談
- 2 成年後見制度の利用促進や高齢者虐待の早期発見や防止など(権利擁護)
- 3 要支援と認定された方のケアプランを作成し、自立に向けた生活ができるように支援(介護予防マネジメント)
- 4 地域で高齢者を支えるケアマネージャーの相談や他の機関へ連携をスムーズにできるように支援

2 デイサービス事業

要支援・要介護の認定を受けた高齢者に、施設に通っていただき、食事・入浴・レクリエーションなどのサービスを提供しています。**送迎あり**

デイサービスの日

- 9:00 ~ 9:30 ご自宅までお迎え。車椅子のままでもお乗りいただけます
- 9:30 ~ 11:45 健康チェック
入浴や創作活動などを楽しんでください
- 12:00 ~ 13:30 昼食・休憩
- 13:30 ~ 15:00 レクリエーション・おやつタイムなど
- 15:00 ~ 16:00 ご自宅までお送りします

毎月のお誕生日会やお花見(4月)、運動会(5月)、敬老まつり(9月)、クリスマス会(12月)など季節の行事も盛りだくさんです。

3 居宅介護事業

要介護と認定された方の希望や心身の状態を考慮してケアプランを作成し、その人らしい生活ができるように支援します。



東成区社会福祉協議会では、次の事業も行っています。

4 介護予防事業(通所型)

将来、要支援・要介護となるおそれのある高齢者に対して、生活機能の低下を防ぎ、自立した自分らしい生活を送っていただくことを支援します。

- 1 運動器の機能向上事業
週2回マシンを使った運動を中心にに行います(1クール3ヶ月)
- 2 口腔機能向上事業
歯科衛生士の指導で、歯磨きの仕方や健口体操などしっかり噛むことができ、食事や会話を楽しめるようにします。(1クール3ヶ月)
- 3 栄養改善事業
バランスのよい食事内容について、管理栄養士の指導で行います。(1クール6ヶ月)
- 4 閉じこもり予防事業
区内の11校下の老人憩の家や地域集会所で、創作活動やレクリエーションなど多彩なプログラムを行い、交流を図ります。(1クール6ヶ月)



5 地域生活支援事業

地域生活支援ワーカー(コミュニティソーシャルワーカー)は、担当地域(小学校区、中学校区)の住民からの相談に対して「ワンストップ窓口」の機能を果たし、必要な支援を住民と一緒に考え専門相談機関へつないでいく役割を担います。一人ひとりが住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、個々の地域生活とそれに連動した地域福祉活動を支援します。

▲おまもりネットカプセル(「新道パトリ」にて作成)

活動内容

- 1 当事者・家族等あらゆる地域住民からの相談へのワンストップ対応
- 2 認知症高齢者や児童等への虐待ケースの相談、支援や継続的な見守り活動
- 3 関係機関との連携による個々の地域生活の支援
- 4 高齢者の介護、介護予防に向けた支援、相談活動
- 5 校下社会福祉協議会、地区ネットワーク委員会と連携した支援
- 6 認知症の理解に向けた普及啓発活動

6 あんしんさぽーと事業

認知症や知的障がい・精神障がいなどにより判断能力が不十分な方々が安心して生活できるように支援します。

- 1 福祉サービス等利用援助
- 2 金銭管理サービス(金銭管理や支払い手続の代行)
- 3 預かりサービス(通帳や証書類の紛失や盗難を防止)



市民交流拠点「新道パトリ」で実施する
「高齢者ちよっと相談窓口」
毎週火曜日(祝日休)
午後1時30分~4時

東成区老人福祉センター

居・場・所

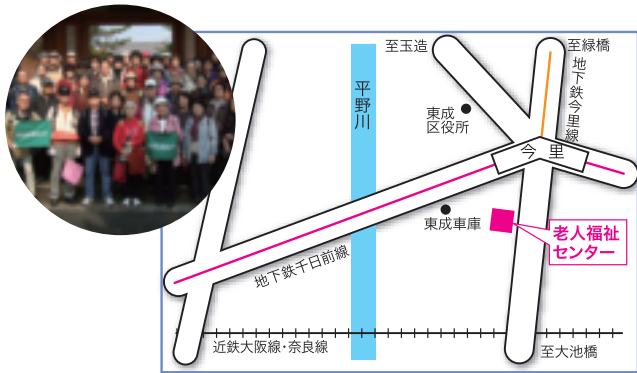
東成区子ども・子育てプラザ

市内にお住まいで、60歳以上の方なら、どなたでもご利用いただけます。高齢者の生きがいと健康づくり・仲間づくりを応援する地域の福祉施設です。各種グループ(現在18同好会)も元気に活動中。東成区老人クラブ連合会の事務局もあります。

老人福祉センターの年間行事など(抜粋)

- 高齢者の総合相談(月1回)
- 囲碁・将棋大会(年5回)
- パソコン講習会(通年)
- お誕生会(年4回)
- 歩こう会(年2回)
- 利用者演芸大会(年3回)
- 文化祭(年1回)
- 民謡大会(年1回)
- 音楽サロン(月1回)
- 初釜・お茶席(年各1回)
- 映画サロン(月2回)
- おたっしや表彰(年1回)
- 生涯学習講座「いちよう学園」「パンジー学園」(年各1回)
- 医師による高齢者健康医療相談(毎週火曜・金曜)

★2010年度は、緑のカーテン(ゴーヤを使った壁面緑化)や、屋上緑化(サツマイモ・ジャガイモ栽培)にも取り組みました。



- 住 所** 大今里西3-6-6
- TEL** 6972-0855 **FAX** :6972-4706
- 利用時間** 10時～17時
- 休 館 日** 日曜日・祝日・年末年始
- 利用料等** 無料。ただし、材料費や交通費などは実費負担。
- 利用方法** 利用証を窓口へ提出していただきます。初めての方は利用証を発行します。

つどいの広場

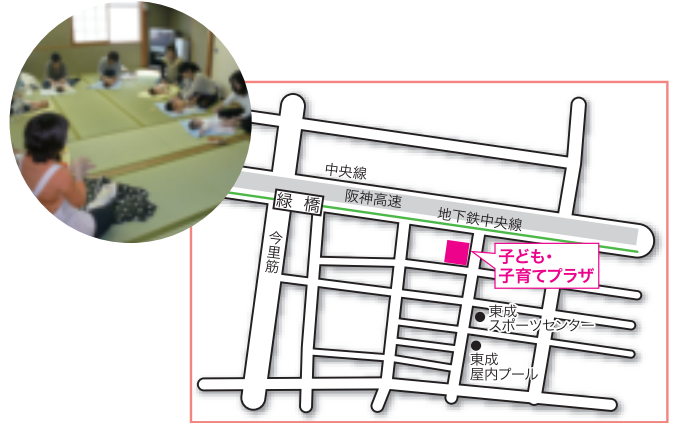
乳幼児とその保護者が楽しく自由に遊べ、互いに交流できます。
【利用対象】大阪市にお住まいの乳幼児とその保護者
【利用時間】火曜～土曜日 9時30分～14時30分

児童健全育成事業

自由な遊びの場の提供や行事の開催などを通じ、同世代、異年齢の交流による社会性の発達や体力の形成等、児童の健全育成を図ります。

【利用対象】大阪市にお住まいの小・中・高校生
【利用時間】火曜～金曜日 放課後～17時
土・日曜日・夏冬春休み中は9時30分～

※子育て活動を行うグループに対する活動の助言や活動場所の提供もしています。



- 住 所** 東中本2-3-16
- TEL** 6976-0300 **FAX** :6976-0300
- 利用時間** 9時～20時45分(日曜日は17時まで)
- 休 館 日** 月曜日・祝日・年末年始
(月曜日が祝日の場合はその翌日も休館)
- 利用料等** 無料。ただし、材料費等実費が必要となることがあります。
- 利用方法** 登録制。登録申込みは随時受付。

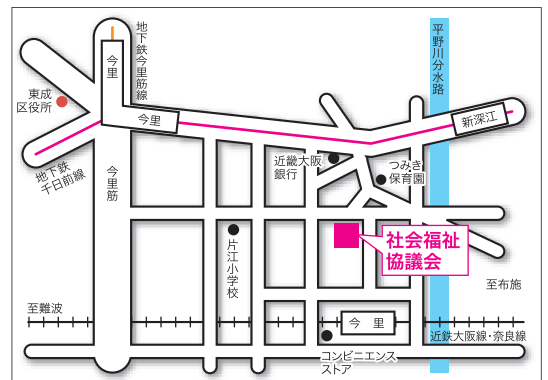
社会福祉法人 大阪市東成区社会福祉協議会

〒537-0013 大阪市東成区大今里南3-11-2 東成区在宅サービスセンター内

TEL 6977-7031 FAX 6977-7038

URL <http://www.higashinarikushakyo.jp>

- 最寄駅** ●近鉄大阪線・奈良線「今里」駅徒歩3分 ●地下鉄千日前線「新深江」駅徒歩8分(2号出口)
●地下鉄千日前線・今里筋線「今里」駅徒歩10分(6号出口)
- 利用時間** 月～金曜日:午前9時～午後7時(但し、午後5時30分以降は一般相談受付のみ)
土曜日:午前9時～午後5時30分
- 休 館 日** 日曜日・祝日・年末年始



赤い羽根共同募金のお礼

昨年10月から始まった共同募金運動は、皆様の暖かいご協力により12月末で、8,862,039円が寄せられました。厚くお礼申し上げます。寄せられた募金は、大阪府共同募金会を通じ、社会福祉協議会を始め福祉施設や団体に配分され、地域福祉活動に役立たせていただきます。

東成地区募金会(東成区役所地域振興担当内)TEL:06-6977-9734